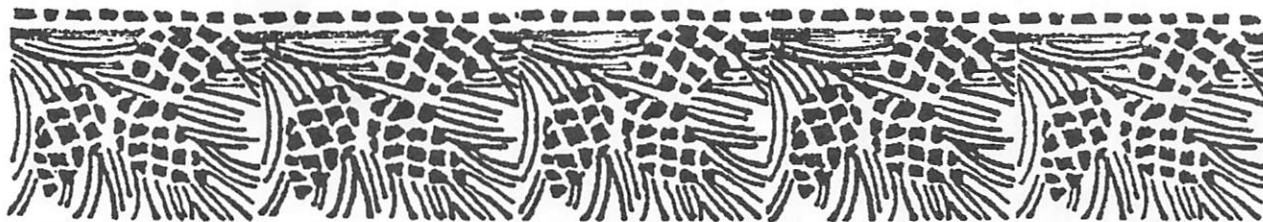


紀学同窓会報



第35号 令和5年9月1日 和歌山大学教育学部同窓会 題字：大岡 皓崖 デザイン：山口 信郎

ポストコロナ時代と同窓会



紀学同窓会会長

岡村周成 (15期)

会員の皆様には、平素より当会の活動にご理解とご支援を戴き誠に有難うございます。

ところで、二〇二〇年当初から爆発的に感染が拡大しました新型コロナウイルス感染症のもと、所謂「コロナ禍」の状況が続き、日常生活も様々な制約・制限を受けることを余儀なくされました。

その間、当会の活動も理事会・評議員会及び各支部の会合等が軒並みに中止となるなど著しく制限せざるを得なくなり、関係各位に大変なご苦労・ご不便をおかけしました。

ようやく、「第八波」以降は対策の効も有り、感染状況が落ち着きはじめました。政府の感染法上の第五類への引き下げや出入国の制限の撤廃等が進み、以前の「日常」が戻りつつありますが、それと同時に「日常」の持つ意味の深さにあらためて考えさせられたことが多々ありました。

まだまだ予断を許されませんが、今はポストコロナ時代に入っていくこととなります。

従いまして、令和五年度は、当会の活動も通常に戻し、感染対策に留意した上で理事会・評議員会も三年ぶりに開催する運びとなりました。

積年の課題としては当会の組織の強化・充実が挙げられます。当会の役員を現職の方々に担っていただくこと、はかかなり厳しい状況があり現実的ではありません。しかし、定年後も何らかの理由・形で仕事に就く方々も多く、

本会・支部共々、無理を承知でお願いしているのが実際のところですが、また、支部として県内に八支部、県外に五支部が設置されていますが、一部には支部活動費補助金を辞退するなど、ほぼ休眠状態にならざるを得ない状況も見受けられます。

県外の支部の多くは、昭和五〇年の創立一〇〇周年式典を契機に紀学同窓会が再発足した際に設置されました。したがって、当時の卒業生の人脈が支部設置に大きく関与していたと推測されます。一方、現在の県外卒業生の在住分布状況を見ますと、既設の県外支部ではカバーできない空白地域が多々見られます。現規約では、支部未設置の地域では評議員を選出できず、意見が反映しづらくなっています。これらの課題解決に向けても取り組んでいきたいと思っております。

H.P.等を活用して会員の皆様方の声をお寄せ下さい。さて、真砂キャンパスに「奥山の根上がり松」の老樹が一本だけ威容を誇っています。この松の保全事業に当会も寄附金を拠出しています。皆様方のご理解・ご支援をお願いします。(拠出金は会費からでは無く、別途寄附された基金から支出しています)

今、和歌山大学及び教育学部におきましては、コロナ禍を乗り越えて「地域と共に歩む国立大学」としての在り方を目指して様々な改編・改革が進められています。

従いまして、当会といたしましても、新たな体制への理解に努め、支援・協力を続けて参りたいと思っておりますので、会員の皆様方もよろしく願います。

紀学同窓会とともに

歩む大学へ



和歌山大学長

本山 貢

紀学同窓会および会員の皆様方には、平素より教育研究活動に多大なご尽力をいただき心から感謝を申し上げます。これまで四年間にわたり教育学部長としての責務を果たしてきましたが、令和五年四月から和歌山大学第十八代学長に就任し大学の責任者としての任務を全うしていきます。ご支援のほどよろしくお願いいたします。

さて和歌山大学は、教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部、そして令和五年度から文理融合のデータ利活用人材の養成を目指す社会インフォマティクス学環を新たに設置しました。教育学部では、教員就職率をこれまで以上に高め、和歌山県を中心とした質保証された教員養成に取り組んでいます。経済学部では高度な専門知識と実務能力をバランスよく備え、社会において即戦力として活躍できる人材の育

成を目指しています。体系的なカリキュラムや丁寧な学習支援体制により、早期卒業や飛び級による大学院進学を視野に入れた教育研究指導を展開しています。観光学部では国内の観光学をリードする教育機関として、国連世界観光機関が実施する「T-edQual」認証を取得しています。我が国において、学部・大学院一環で当該認証を取得しているのは観光学部・観光学研究科のみであり、本学の特長の一つです。また令和五年度より観光人材を育成する日本初の専門職大学院を発足させました。システム工学部では最先端の研究や世界の動向を見据え、複合的な専門知識・技術を身に付けることができ、広範かつ柔軟な専門性をもった、より高度な専門性を身に付けるために、学部四年間と博士前期課程二年間をシームレスに学修することができ六年一貫制を

スタートさせました。また起業家精神を育成するアントレプレナー教育を本格的に実施するなどこれまでにない幅広い教育体制ができています。

その中でこれからの社会が希求しているものは、「学びに向かう豊かな人間性、そしてコミュニケーション力」だと考えています。自身の感情をコントロールし、他者を尊重し、「思いやり」の心」を身につけてほしいと思っています。和歌山大学での学びを志すZ世代の皆さんが、「大学とは何をすべきなのか」という問いに対して、私たちはしっかりと責任をもって答えていきたいと思

います。私たちは、和歌山大学での学びを志す皆さんをしっかりと鍛え、社会に送り出す責務において明確なビジョンと戦略をもって体系的な教育課程を編成し、社会を創る学び、インターナショナルな学び、そして地域での学びなど、さまざまな学びを支援する仕組みを設け、身に付けた学びが実感できるよう支援していきたいと考えています。

和歌山大学は、豊かな自然環境と世界文化遺産に恵まれた和歌山県唯一の国立大学として、地域社会と共に地域の発展に寄与し、地域を牽引する人材育成を目指しています。地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造を実現させるために、学生と教職員、地

域が共に育つ総合大学としての強みと特色を明確化し、さらに大学を支えていただいている同窓会や後援会の組織との信頼関係を築きながら常に対話を重視し、連携を深めるため積極的に努力していきたいと思っています。

和歌山大学は一般に「地方大学」といわれますが、地方大学はすなわち地域社会との距離が近い大学です。本学構成員の多様な研究分野は、複雑化・多様化・高度化する地域課題に十分対応してまいります。その成果として社会実装を実現し、「地域と共に歩む国立大学」として、社会貢献に努めていきたいと考えています。

また、附属学校に通う児童・生徒の保護者や関係者、そしてOB・OGは地域社会への関心の高さはもちろん、和歌山大学への期待も極めて高いでしょう。附属学校は単に教育を行う場ではなく、我々と地域をつなぐ重要な窓口であることを意識して相互の関係を深めていきたいと考えています。

最後に、和歌山大学は地域や同窓会、後援会などステークホルダーからの多くの言葉に耳を傾け、対話することを忘れてはならないと思っています。紀学同窓会員の皆様のご支援とご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

地域とともに学びの未来を拓く 教員養成を目指して



教育学部長

田川裕之

紀学同窓会員の皆様には、平素より教育・研究活動に多大なるご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

(3) さて、二〇一九年度末に突如として現れ、全世界に猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症も、三年あまりの歳月を経て、二〇二二年秋以降の「第八波」を最後に、ようやく落ち着いてきたように感じられます。それに伴い、新型コロナウイルスの感染法上の分類は、五月初旬に季節性インフルエンザと同じく第五類に引き下げられ、大学キャンパス内においても、「三つの密」の回避、「手洗い等の手指衛生」、「換気」等の基本的な感染対策を継続しつつも、マスク着用については個人の判断を尊重し、対面での授業実施を

原則とするなど、ほぼ四年前の状況にもどりつつあります。

今後、季節性インフルエンザと同等的もしくはそれ以下のレベルでの感染状況を継続していくのか、再び感染拡大の波がやってくるのか、といったことについては全く予想できませんが、いづれにしても、教育学部としては、学生の皆さん、及び教育実習やボランティアなどでお世話になる学校現場の方々の安全・安心・健康を第一に考え、教育の質保証を行った上で適切に対応していく所存です。

すでにご存じのように、和歌山大学教育学部は、一八七五年に和歌山県師範学校として創設され、時代の変化や地域の要請を受けて、その姿を何度も

変えてまいりました。特に、今年度より、学校教育教員養成課程の三つのコース（初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コース）を、学校教育コースと支援教育コースに改編し、初等教育にシフトしたカリキュラム改革を行いました。

新しいカリキュラムでは、すべての学校教員の基盤となる小学校の学習内容を深く理解するために小学校の教員免許状の取得を卒業に必須とし、さらに、昨今の教員不足に対応し、地域の期待に応え、教員としての力量を向上させるために、小学校だけでなく他の学校種（中学校、高等学校、幼稚園、特別支援学校）の教員免許状を併せて取得していただくことも目指しています。

また、教育学部では、学校推薦型選抜（地域【紀南】推薦枠）で入学した学生の教員採用試験合格率、教員就職率、及び大学での成績評価が一般選抜（前期日程、後期日程）で入学した学生よりもかなり高いという実績が文科省に認められ、今年度入試から和歌山県全域に地域【紀南】推薦枠を拡大する形で学校推薦型選抜（きのくに教員希望枠）を実施いたしました。

特に、学校推薦型選抜（地域【紀南

】推薦枠、きのくに教員希望枠）で入学した学生の大多数は、小規模校化の進む和歌山県内小学校での教員就職を希望しています。従いまして、四年間の学修成果としての知識・技能の修得だけでなく、一、二年次の小規模校活性化支援事業、三年次のへき地・複式教育実習などの和歌山大学教育学部の特色のひとつである自然豊かな地域でのホームステイ型の教育実習に参加することで、近い将来、地域に貢献できる力量を十分に兼ね備え、地域の期待に応えることのできる教員としての学校現場での活躍が大いに期待されます。

このように地域とともに学びの未来を拓く学校教員の養成に、大学教員、職員が力を合わせて取り組んで参りますので、紀学同窓会員の皆様には、引き続きご支援、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



多様化する紀学同窓会

松尾

寛

教育学部事務室長
(学長秘書室長)(44期)



紀学同窓会は一般に和歌山大学教育学部を卒業した教師のための同窓会と思われ方が多いかもしれませんが、しかし実際は、教職以外のさまざまな分野において実に多くの方々が活躍しています。

この背景には、昭和後期から平成にかけての日本の教育政策、特に全国各地の教育学部で設置された「ゼロ免課程」の存在が挙げられます(卒業された皆さまにおかれましては「B課程」という言いまわしのほうがしっくりくるかもしれませんが、ここでは「ゼロ免課程」で統一します)。

ゼロ免課程が設けられるに至った背景は一九八〇年代にさかのぼります。「団塊ジュニア」とよばれる戦後最大の厚みを持つ世代を高等教育で受け入

れるための対応が急務だったことに加え、二十世紀末にかけて教員需要が一時的に低下していくことへの対応として、教育学部の持つ「多種多様な事柄を幅広く学びえる場」という機能、すなわちベラル・アーツの部分が目玉されたことが挙げられます。

平成元年、和歌山大学教育学部においても「教養学」を学位とするゼロ免課程、文化社会課程と生産科学課程が発足します。当時、高校の進路相談で「地元の大学に行きたい」と言うのと、決まってゼロ免課程の話題が出てきたことを覚えています。その後、平成八年には総合科学課程が、平成十一年には国際文化課程・自然環境教育課程・生涯学習課程が、平成二十年には総合教育課程がそれぞれ改組により設置されました。短い期間にさまざまな課程が設けられた背景には、時代や社会の要請とともにカリキュラムも見直されていったからで、平成という時代は、IT革命や二度の大震災など、社会の

振れ幅の大きさに改めて気づかされま

外国人留学生のことも忘れてはならないと思います。一九八〇年代の「留学生十万人計画」によって日本で学ぶ外国人が急増し、多くの方が(教職課程の履修を必須としない)教育学部のゼロ免課程に入学しました。彼ら彼女らはなぜ京阪や東京の大学のみならず地方にある和歌山大学に入学したのでしょうか。理由のひとつとして、中華人民共和国や台湾出身者にとって「国立」大学というブランドはわれわれが考える以上にとても大きかったことを挙げたいと思います。

平成時代の教育学部は多様な学生によって構成されてきました。教員養成課程に在籍する学生にとってもこのメリットがあって、ゼロ免課程で学ぶ学生や留学生と接することによって、教員養成課程にいながらにして幅の広い価値観を理解するための環境を得ることができました。そして教育学部に対する社会の認識も変化していきます。以前であれば教育学部という教員以外の就職希望者を忌避する傾向にありましたが、ゼロ免課程の存在が認知されることによって教育学部出身者(教員養成課程を含む)は民間企業や公務員への就職活動に際して高く評価されるようになりました。

ゼロ免課程の第一世代はすでに五十歳代となっています。いわゆる社会の中核をなす世代であり、同時に紀学同窓会を構成する会員の皆さまも多様化

していることに気づかされます。

現在、日本の国策はゼロ免課程の縮小へと傾き、和歌山大学教育学部においてもゼロ免課程は平成二十七年入学者を最後に廃止され、教員養成課程も令和五年度入学者より全員が小学校教諭免許状を取得する方向へとシフトしました。教育学部の多様性が失われてしまうのではと危惧されるかもしれませんが、心配はご無用です。現在の和歌山大学は、従来の教育学部や経済学部のほか、システム工学部、観光学部、そしてデータサイエンス人材を養成する社会インフォマティクス学環が設置され、南近畿の中核をなす総合大学へと成長しております。当時と遜色なく、いやそれ以上に、教育学部で学ぶ学生は幅広い価値観のなかに身を置くことができるものと私は信じています。

ところで同窓会というと、同年入学の会というイメージをお持ちの方も多岐にわたりますが、紀学同窓会はさまざまな世代の皆さまによって支えられています。和歌山大学では毎年十月に卒業生が自由に本学を訪問できる「ホームカミング・デー」を設けており(詳細は和歌山大学ウェブサイトに広くお知らせしております)、例年幅広い世代の卒業生にお越しいただいております。今年の秋は、是非、和歌山へ。私もスタッフ一同、心よりお待ちしております。

業績を仰ぐ

行行眇眇

—短歌の普及に尽力—

永廣 禎夫 先生

(学芸8期)



(5)

二〇一九年四月一日、新元号が「令和」と発表された。永廣先生は「出典が万葉集と知って、大学や万葉講座で教えていることもあり、心の中が驚きとうれしさでいっぱいになりました。すぐに自宅で万葉集を開いて確認しました」と語っていました。(毎日新聞)

永廣禎夫先生は昭和十二年に和歌山県日高郡御坊町(現御坊市)にて出生。父親の転勤に伴い、徳島県等を経て和歌山県有田郡吉備町に居が定まりました。県立吉備高校を卒業し、和歌山大学

学芸学部に入學。国文学を専攻し、恩師田林義信教授に教えを乞い、これを機に以後万葉集の研究に勤しむこととなりました。同期の学友からの永廣さんの印象は、「誠実・真面目・人を大事にする・コツコツ努力する」だったそうです。当時、勤評反対の学生ストで入構出来ない時があると、県庁近くの永廣さんのアパートが溜り場となつたそうで、人望の一端がうかがえます。そして、国文学教室の先生方(田林義信・馬田義雄等各教授方)からのご指導や様々な交流・交歓によって万葉集研究の基礎固めがなされました。

例えば※田林教授が主宰する「垣穂短歌会」に入会、以降、短歌誌「垣穂」発行に永く携わる。※「紀州に残る万葉の跡地ハイキング」真土峠等。※年一回の国内旅行(先生一名同行)鳥取等。

これらの活動を糧とし、万葉集に向き合い、歌人としても一步を踏み出した永廣さんは、真砂キャンパスを巣立っていきました。

大阪市の中学校で教職に就いた後、和歌山県に戻り、母校の吉備中学校を始め桐蔭高校等県下各校で実践を重ね、和歌山県教育委員会学校教育課副課長

を経て耐久高校及び桐蔭高校の校長を勤め定年を迎えました。

十数年後、桐蔭高校で担任した教え子たちが、五十歳の節目に同窓会を開き、母校での永廣先生の古典の授業を企画しました。三十一年ぶりの授業に全国から集まった元生徒たちは、ユーモアあふれ、終始和やかな雰囲気授業にひたり、もっともって聞いていたいと笑顔だったそうです。永廣先生のお人柄が偲ばれます。

また、定年後は大学で教壇にたち、奈良産業(現奈良学園)大学等で教授を勤め、万葉集研究を推し進めました。

一方、万葉学会や日本歌人クラブの会員としての永廣先生は、恩師田林先生の後を継ぎ、和歌山県歌人クラブ会



自ら書いた新元号「令和」を手にする永廣禎夫さん。和歌山市で、山本芳博撮影

長・燦短歌研究会代表・毎日紀州歌壇選者等を歴任し、地元和歌山での短歌普及に尽力されました。このような功績もあって、令和元年度和歌山市文化功労賞を受賞されました。万葉所縁の地「和歌の浦」で表彰授与式があり、その喜びを詠まれています。

「蒼穹のあくまで澄める和歌の浦に我が身に余る賞を受けたり」

数ある著書の一冊の表題は「行行眇眇」(こうこうびょうびょう)とあります。出典は漢詩で、意は「行く道遙かなり」だそうです。

令和三年十一月十九日(八十四歳)永眠。ご冥福をお祈りいたします。

著作物

- ・「万葉集私攷」
 - ・「万葉集作者未詳群考」
 - ・「万葉の故地を巡る」
 - ・「歌文ノオトⅠ新たななる出発」
 - ・「歌文ノオトⅡ行行眇眇」他多数
- 表彰
- ・和歌山県教育研究奨励賞(昭和五十年年度)
 - ・文部大臣教育者表彰(平成九年度)
 - ・瑞宝小綬章(平成二十三年)
 - ・和歌山市文化功労賞(令和元年度)
 - ・従五位に叙する(令和三年)

実物教育

准教授

梶村麻紀子
かじむら まきこ

(43期)

私は十四年前に当時の理科教育専修の教員として母校に採用されました。現在は理科教育及び生物の教科専門科目を主に担当しています。これまで主に魚類の代謝機構について研究を進めてきました。

最近では様々な情報端末から、あらゆる生き物の詳しい情報を簡単に得ることが出来る時代になりました。一方で、こうして得られる情報はその生き物が実際に生活している環境と切り離されたものであることが多いのも事実です。そのことが、生き物が目の前にいても認識できないといった状況を生み出しているようにも思えます。そこで学生とともに、実際に生き物に触れ、観察を行うというプロセスを大事にした教材開発や教育実践に取り組んでいます。

以下に二つの取り組みを紹介させていただきます。一つ目は、教育学部附属特別支援学校において高等部の生徒とともに、校内に植栽されている樹木の種名を調べ、樹名板を取り付ける実践を進めたものです。樹名板によって植物の名前がわかると、図鑑を用いて特徴等を調べる事が可能になるだけでなく、葉や幹の手触り、花の匂い、訪れる様々な昆虫たちなど、五感を用いて植物全体を認識できます。さらに、最近の樹名板にはQRコードも記されているので、観察しながらスマートフォンなどでWeb上の図鑑を確認するこ

とができます。二〇二〇年から進められているGIGAスクール構想により、一人一台の端末が配備されていますが、この実践では、生徒が端末を使用している植物の写真撮影や解説文の作成を行い、それらを用いてプログラムを開発するなど、端末を最大限活用しながら生徒たちの多様な興味・関心を生かす試みができたと考えています。

二つ目は和歌山市内の学校プールを利用した試みです。教育学部附属小学校のプールで採集を行ったところ、複数の種のヤゴを確認することができました。プールは水泳での使用が中心となる施設ですが、特に都市部での解放水面は、昆虫たちにとって大変魅力的な環境です。飛翔性の昆虫は驚くほど素早くこうした環境を発見し生息を始めます。今後、多様な生き物が年間を通して「学校プール」という環境をどのように利用しているのか、研究を進めたいと考えています。

生き物を調べ、観察するために遠くまで行く必要はなく、校内でも十分可能です。教科書の写真や映像は拡大され、美しくはつきりと確認することが可能なものも多いですが、やはり実際にその生き物が暮らしている環境の中で実物に触れることは、児童・生徒の興味関心の育成や、知識・理解の深化につながるだけでなく、自然や生き物に対する感性を育む点でも重要であると考えています。



各支部活動のようす

・令和四年
活動計画、会計予算案
・活動計画、予算案検討

- 1 令和四年度支部活動について
- 2 令和五年度支部活動計画について

◇和歌山市支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 支部役員・事務局会
支部理事会
日程等は未定

◇海南・海草支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 評議員会開催予定

◇那賀支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 未定

◇橋本・伊都支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 支部卒業生名簿作成

◇有田支部

- 1 情報交換
- 2 未定
情報交換

◇御坊・日高支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 評議員会参加予定

◇田辺・西牟婁支部

- 1 支部理事会開催
・令和元年〜三年
活動報告、会計決算報告

◇新宮・東牟婁支部

- 1 役員会
- 2 役員会開催予定

◇堺支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 四月 役員会
総会・懇親会開催予定

◇大阪支部

- 1 総会は中止
現任教員と学校運営等についての連絡相談
会員募集
- 2 十一月十日 総会開催予定
会員募集の強化
現役先生方の研修会

◇関東支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 五月中に会合し計画話し合い予定

◇淡路支部

- 1 コロナ禍のため活動せず
- 2 総会・懇談会
会員拡大

◇福井支部

- 1 十一月十八日
柑芦会福井支部との合同総会
- 2 柑芦会福井支部との合同総会
十一月実施予定

令和七年度版

会員名簿発行に向けて

名簿担当 **大江 嘉幸**
おおえ よしゆき
(16期)

七年に一度発行する紀学同窓会名簿ですが、次回は令和七年(二〇二五年)九月に発行を予定しています。

これまで、皆様にとって、より身近で親しみやすいものとなるよう軽量化を図り、手に取りやすく、見やすい冊子へと改良・改善を行ってまいりました。懐かしい学友の名前とともに母校の古今の写真等が掲載される予定であり、若き日の切磋琢磨する学びの日々を懐かしく思い出される方もおられることでしょう。

会員名簿は、会員相互のつながりを保つとともに、同窓会活動の充実と発展のために不可欠なものであると考えます。会員名簿の持つ意味を真摯に受け止め、今後より正確な会員の情報を収集し、作成に努めてまいります。皆様方の情報提供やご意見など、ご協力のほどよろしくお願いたします。なお、住所変更等ありましたら左記へハガキでお知らせいただければ幸いです。

〒640-8510
和歌山市栄谷930
和歌山大学教育学部内 紀学同窓会

ホームページを

ご覧くださいます

HP担当 **鎌田 淳一**
かまだ じゅんいち
(26期)

ホームページは、本会理事の豊田充崇 教授の管理のもと、本会の様々な情報の提供に努めています。

「紀学同窓会」で検索し、メニューのホームから、「会報」、「写真集」等いろいろページをご覧ください。ホームページのアクセス数は、コロナ感染拡大のため一日平均五十件程度に少なくなっています。ただ、同窓会会員の閲覧は、一日十五〜二十件程度と変わりありません。

新型コロナウイルス感染症が二類より五類に引き下げられた結果、様々な行事が行われるようになりました。そこで、同窓会本部をはじめ各支部の活動を紹介し、会員相互のつながりをさらに深める一助となればと思います。今後とも更新に努めていきますので、おりにふれてご覧いただければと思います。また、合わせて各支部の活動状況、会員みなさまの寄稿もお願いいたします。

郵送については同上
TEL: 073-457-7203
メール: info@kigaku.sakura.ne.jp
問合せ: 豊田 充崇 宛
toyoda@wakayama-u.ac.jp

根上り松と共に

根上り松担当 **鎌田 淳一**
かまだ じゅんいち
(26期)

令和四年度に岡村会長より本会の根上り松担当を引き継ぎました。私事で恐縮ですが、昭和三十六年附属小学校に入学して以来(当時、複数本の根上り松が生えていた奥山に行くには先生の許可が必要でした)中学校、大学と(在学中に所属していた合気道部の部室は根上り松の真ん前にありました)学生時代の大部分を根上り松に見守られ育って来たように想い、何か縁というものも感じられます。

根上り松も現存するものは、附属小学校のグラウンド中央にある一本だけになり、しかもその木の樹勢は衰えが見られました。

そこで、保全事業が行われています。樹木医に依頼して、地上部分の消毒、地下の根の環境改善工事等が行われ、徐々にではありますが樹勢が回復しています。これらの経費は、県、学部、紀学同窓会、附属小中学校各同窓会より拠出されています。

この現状について、私は何よりもうれしく感じています。栄谷キャンパスしか知らない世代の方々の気持ちとは隔たりがあることと思います。

今後とも、節目々々において、事業の在り方を検討していく必要があると考えています。



紀学文庫に

心の宝物がいっぱい

紀学文庫担当 **福田 光男**
ふくだ みつお
(23期)

「うわー、すごい本が並んでいるね」
「綺麗な装丁だし、最初のページを読むだけで引き込まれるね」
和歌山大学教育学部紀学同窓会には紀学文庫があります。同窓生の皆様が御寄贈された珠玉のご著書です。現在、図書館にならんでいます。教育関係・歴史・紀行文・スポーツ関係・随想・詩集等々があります。また県下小中学校の百周年記念誌や百五十周年誌等などが並べられています。たくさんのご著書から一冊を手にする装丁も素敵です。内容も感銘深い作品ばかりです。教育関係のご著書には、教材と発問、子どもの考えの深まり、単元を通じた問いのつながりなど、担任された子どもたちの笑顔がよく浮かびます。

紀行文は、日本各地は勿論の事、海外に行かれた景色が目の前に浮かんできます。歴史関係では、地域史にすぎないものがたくさんあります。われわれ同窓生にとりまして懐かしい友人のご著書です。

最近の学習指導要領に、主体的で、対話的で、深い学びというのがあります。一冊の本で同窓生の和が広まり、自ら学び、自分の考えが広がり、そんな素敵な深まりをもち、友達と話し合っていく素敵なものになっていくものです。

是非大学の図書で本を手にとってください。また、是非お書きになられたご著書を是非紀学文庫へお寄せください。お友達が書かれた宝物を推薦してください。

令和四年度 紀学同窓会会務報告

令和4・4・5	入学式…教育学部新入生 学校教育教員養成課程 一七一名、 教職開発専攻 二二名 ※外国人留学生はございません。
4・15	事務局会…令和四年度事業計画等について
4・21	諸 会…理事会及評議員会中止のお知らせ葉書送付
5・6	会計監査…令和四年度会計決算監査
5・10	理事会…コロナ禍の為中止
5・12	事務局会の審議結果について(報告) 通知を郵送
6・7	評議員会…コロナ禍の為中止
6月	第一回 学生模擬面接 コロナ禍の為中止
6・17	支部活動費補助…送金
7月	第二回 学生模擬面接 コロナ禍の為中止
7月	堺支部総会…コロナ禍の為中止
10・22	和歌山大学同窓会(コロナ禍の為中止) ホームカミングデー (コロナ禍の為中止(バーチャルにて大学の「今」を紹介))
11月	大阪支部総会…コロナ禍の為中止
11月	関東支部総会…コロナ禍の為中止
3・15	三役会…来年度の計画・役員・理事人事について
随時	根上がり松の保護・手入等実施を確認
随時	ホームページ随時更新
随時	紀学文庫搬入
令和5・3・24	卒業式…教育学部卒業・修了生 学校教育教員養成課程 一六五名、 教職開発専攻 一八名 ※外国人留学生はございません。

令和五年度 紀学同窓会役員名簿(順不同)

- 会長 岡村周成
副会長 大江嘉幸 旅田利枝子
南 良和 家崎豊和
鎌田淳一
会 計 田窪佳寿子
顧 問 田川裕之 中井澄明
監 事 林 秀晃 北畑嘉之
鳥居賀柄子
理 事(・印は事務局)
・豊田充崇 池田拓人 尾上利美
梶村麻紀子・岩橋邦明 道下雄三
・福田光男 小松龍三
・武本多香子・藤田直子 西川厚子
・藤本典子・梅本優子 北垣有信
・加藤正彦・勝本泰弘 石田晋司
評議員(◎支部長)
和歌山市支部
◎杉浦 至 青山穆子 太田 徹
松山 祐 平 逸男 松下 太
山本静章 庄田光伸 宮崎弘志
岡 正人
海南・海草支部
◎馬場将仁 土田孝男 南條俊樹
野崎和男 高岡成豪
那賀支部
◎植野 隆 北田勝博 山田敬夫
橋村泰爾 前川佳博 安居 理
橋本・伊都支部
◎森本晃司 加藤久規男 今田 実
下村克彦 喜多秀行
有田支部
◎上田和幸 宮井哲也 岩本明児
守法善明 宮崎庄三 下坊利之
- 御坊・日高支部
◎古家禾積 寒川正美 向井忠晴
岡本哲司 田中康雄 芝田博文
田辺・西牟婁支部
◎山本昌二郎 津村 均 前岩 崇
山本ちづき 濱野公二 宮田博之
新宮・東牟婁支部
◎山口史朗 倉内厚生 藪中敬滋
田中弘倫 山本雄才
堺支部
◎中村喜久夫 戸井武彦 島崎幸司
濱本教行 川北泰男 大矢根克典
大阪支部
◎出口健次 古谷昭雄 島田直人
中村嘉孝 豊田雅弘
関東支部
西山登朔 山田早百合 鈴木泰子
下 公子 東谷慶太
淡路支部
◎本條滋人 森長和代 近藤幸常
沖津裕司 島野善文
福井支部
◎木本 茂 川畑晃治 石川晶子
木本純二 高本俊明
- 発行 紀学同窓会
(和歌山大学教育学部 同窓会)
事務局 会報編集責任 南 良和
(25期)
〒640-8510 和歌山市栄谷930
電話 073-45717203